

# WEST PRESS 9



# DISCUSSION WEST meets 河井×永江×梅林

「本来の動態保存とは、層状に重ねられた価値を保存することです」

建築家・梅林克が建築家やデザイナーを訪ね、ディテールに対する考え方や設計手法を聞くシリーズ。第9回となる今回は、建築家・河井敏明が築101年の町家のリノベーションを手かけた住宅「ガエまちや」を訪ねた。表通りから少し奥に入ると白木と真鍮の格子が目印の町家がある。引き戸の開け閉めで流動的につながる空間に、明治時代からある梁や土壁、昭和の改修でできた舟底天井、今回加わった建具や柱が層状に折り重ねられている。住人はライターの永江朗。アトリエ・ワン設計による自邸「ガエハウス」に続く、2軒目の建築家との家づくりだ。東京と京都との暮らし方の違いとは何か。リノベーションにあたって何を残し、何を大事にしたのか。そして伝統的な空間や建具に込められた意味とは。河井、梅林とWEST代表取締役の西康雄に加えて、住人の永江も交え、都市や建築、金物に重ねられていく文化的な価値について、幅広い視点から語り合った。

梅林 「ガエハウス」と「ガエまちや」、東京と京都に2つの家を持ってみて、実感はいかがですか。

永江 「ガエハウス」の場合はアウトソースできるものは外に出し、都市をカスタマイズしながら暮らすという考え方でした。京都はその発展形で、鴨川や御所といった都市のリソースも含めて、のんびり、ほっとする場所の延長として家がある感じです。

梅林 自宅と別荘というようなオン／オフの関係というよりも、拠点が2つあり、それぞれの都市で住み方が違うという関係なんです。町家のリノベーションでは、建物を昔の姿に戻して暮らし方も町家に合わせるという方法もありますが「ガエまちや」は違います。

永江 河井さんからは単なる復元とは違うことをしようと言われましたし、僕も昔の住み方に戻すのは嫌でした。

河井 永江さんとは最初、動線の長さについて話をしたんです。近代建築では動線は短い方がいいと教えられてきたけれど、京都で仕事をするうちにわかったのは、動線は長いほうがいいということです。たとえば京都のお茶室などに入ると町中にいながら市中の山居のように錯覚するのは、狭いところを引き回されているうちに感覚が変わることに理由があるのだろうと。

梅林 「ガエまちや」では1階の中心に水まわりのコアを置き、玄関を上がってからコアの周囲をぐるりとまわって上の階に連続し、茶室へと至る構成となっています。この動線は、見立てとしては路地のようなものですね。町家が持っていた長い動線体という構造を残しながら上手く立体化しています。

河井 茶室に行くまでには俗すぎないルートが必要なんです。その途中で炊飯器が見えたらいけないので隠したりと、細部を作り込んでいます。

梅林 長い動線体の引き回しが町家の本質と気づいていないと、こうはなりませんね。近代になされた改修の場合、動線が長いのはよくないと消そうとして失敗することが多いんです。

永江 明治43年に生まれ、昭和の時代に何度か改修を重ねられた町家を初期状態にリセットするのではなく、さらに年輪を重ねるような改修の仕方になっています。

河井 多層的に手が加わっていることを大事にしたかったので、以前からある部材と今回改修した部分は違いが明確にわかるようにしています。建物は新と旧の二分法で価値を判断されることが一般的です。文化財行政の枠組でも、99年前のものには価値がなく100年経ったものは文化財というように分けられてしまいます。でも99年前のものを保存しないと文化財は生まれません。本来の動態保存とは層状に重ねられた価値を保存することです。文化的な豊かさとは、多層的な価値をたくさん持っていることです。京都にしているとそれが実感できます。

梅林 一方で、たとえ建築が失われても、スピリットやソフトが残るということも大きいのではないのでしょうか。

河井 ものの価値を上げる要素とは、最終的にはソフトのみといってもいいかもしれません。たとえば「いわれ」「由来」というものがあります。ニューヨークのメトロポリタン美術館では、せっかく収集した茶道具の箱の価値が分からずに、捨ててしまったという話があります。しかし、その箱の価値とは箱書きによってなされる「いわれ」や「由来」の刻印にあるのです。ファサードの格子の金具や玄関のネームプレートに真鍮の金物を選んだ理由も、時間による刻印がなされることにあります。

永江 あらゆる工業製品は出荷状態がベストで、だんだん価値が減っていくという減価償却的な考え方について、昔から不満がありました。経年変化して時間を重ねるほど価値が増し、完成に近づくというのが正しい考え方だと思うんです。

河井 WESTの金物のよさは、メッキではなくソリッドであること。つまり素材に嘘がないことです。アルミの製品も好きですが、どちらかというとエイジングが加味される真鍮の「blass」シリーズが面白いと思っています。だからこそ表面をクリアに処理しない素地の製品が欲しいのですが。

西 たしかにその方が良いという意見も頂くのですが、指紋もつきやすいので一般的には理解が得られません。エイジングを楽しめる余裕があるお客様だけに使い手が限られてしまうのです。

建物に重ねられた、時間による刻印



## 河井敏明

かわいとしあき  
1967年 菅原市生まれ。  
1993年 京都大学大学院  
建築学専攻修士課程修了。  
1994年 AA School(London)。  
1995年 中村潔、植南真一郎、  
馬場徹らと建築少年設立。  
1999年 河井事務所設立。  
京都大学にて非常勤講師。

- 主な受賞歴  
グッドデザイン賞受賞  
(YANAGINOBANBA WORK-SITE)、  
第6回環境・設備デザイン賞優秀賞  
(平安座島のロングハウス)
- 主な作品  
「平安座島のロングハウス」  
「上京のデイクアセンター」  
「四条木製ビル」。



ガエまちや

梅林 今回の建築金物は最終的な仕上がりを犠牲にしても、施工の容易さを第一に作られています。

河井 ものに対する日本の評価基準は減点法で、まずは瑕疵がないことが重要。技術が低い人が施工しても大丈夫かどうか基準の上位に来てしまいます。

梅林 逆に「ガエまちや」は精度の高い施工技術があったからこそ生まれたものですが、これは数寄屋大工の流れを汲む工務店の蓄積、つまりソフトとして蓄積された価値によるところが大きいのではないのでしょうか。

永江 こちらに暮らし始めて、地域性というものが、実は地域に根ざした人間の生活感から培われたもので、デザインにはすべて根拠があるということがよく分かってきました。たとえばふすまには単に高級な鳥の子紙を貼ればよいというわけではなく、高い等級の紙ほど強いので、ふすま全体のことを考えれば、反りを避けるために等級を下げた方がいい場合もある。そして飛び出した取手は和風の暮らしでは使えません。着物のたもとを引っ掛けるので、へこんでいないとだめなのです。

河井 「ガエまちや」の建具がすべて引き戸なのは、動線の中で出っ張るものがあると困るからなんですよ。しかし引き戸用のよい金物があまりないのも事実です。

永江 住み始めてから、伝統的な住まいが住み手の、ひいては日本人の立ち振る舞いを既定しているということにも気づかされました。たとえば壁は直接手を触れないことが前提となっていて、建具においても手を触れるのはフレームと金具のみ。木軸の在来工法は横揺れに弱いので、足音を立てないように歩く。さらに、畳の縁を踏まないという原則が、結界をつくる役割を果たしている。どれも「ガエハウス」では気づかなかったことです。

梅林 東京と京都を比較しながら、京都にいる私たちが見過ごしているようなことを文化人類学的な観点で気づかれていらして面白いですね。

永江 引き手とは、指が入るだけ開けておいて、少し動かした後はフレームを動かすというつくりです。ふすまは手がかりだけあれば、上から下までどこで開けてもいい。でも西洋由来のドアハンドルはそれだけで開け閉めする必要があります。日本の身体性や慣習に合った建築金物が登場すると、空間のあり方もまた変わるのではないのでしょうか。

## WEST VOICE

2012年6月、WESTは新ブランド「UNICA (ユニカ)」を発表いたしました。有機的な造型が特徴のレバーハンドルはイタリア人建築家、ルイジ・ヴェレーティ氏との協同から生まれました。手になじむデザインは「人のためのカタチ」。皆さんに使っていただきたいレバーハンドルです。

WEST代表取締役社長 西康雄・談

## Next WEST meets 竹山 聖



Kinokuni Onsen Nishimuraya Hotel Shogetsutei  
Photo: Kazuo Natori

## Agaho basis Furniture Knob



10P 11P 12P



17P 18P



19P 20P



### WEST CORPORATION

TOKYO OFFICE / SHOW ROOM  
5-11-15 MINAMI-AOYAMA, MINATOKU, TOKYO, 107-0062 JAPAN.  
TELEPHONE: 03-3499-9260 FACSIMILE: 03-3499-9263

OSAKA OFFICE / SHOW ROOM  
4-3-22 IMABASHI, CHUOKU, OSAKA-CITY, OSAKA, 541-0042 JAPAN.  
TELEPHONE: 06-6221-5777 FACSIMILE: 06-6221-5888

### 株式会社ウエスト

東京オフィス / ショールーム  
107-0062 東京都港区南青山5丁目11番15号  
TEL: 03-3499-9260 FAX: 03-3499-9263

大阪オフィス / ショールーム  
541-0042 大阪府大阪市中央区今橋4丁目3番22号  
TEL: 06-6221-5777 FAX: 06-6221-5888

### WEST PRESS 9

2012年9月19日発行

Art Direction:  
藤脇慎吾  
Text:  
平塚桂 (はむ企画)  
Photo:  
繁田論 (Nacása & Partners Inc.)  
Edit:  
publica